

平成23年度 教育課程

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

心身ともに健康にして、国際的視野に立ち、社会に貢献し得る人を育成する。

- ① 真理を求め、正義を愛する人
- ② 責任を重んじ、自他を敬愛する人
- ③ 勤労を愛し、自主的に行動できる人

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ① 自他の生命及び人権尊重の精神を基盤にいじめや差別をなくし、人権教育の充実を図る。教育活動全体を通し、いじめ等に関する指導の徹底を図り、早期発見・早期対応に努める。また、思いやりの心をもち共に生きる力を養い生命を尊重する教育を推進する。
- ② T Tや少人数指導など指導法の工夫を行い、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。あわせて、学力パワーアップ講師やALTを活用し、学習意欲を向上させ、主体的に取り組む態度等の育成を図るとともに、新聞やICT機器を活用した授業を取り入れ、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成するなど、学力向上に努める。また、二学期制の趣旨を踏まえ、補充的・発展的な学習に取り組ませたり、家庭との連携を深めたりして、基本的な生活習慣や家庭学習の習慣を身に付けさせる。
- ③ 教育活動全体を通して、道徳教育を推進し国際社会に生きる日本人としての自覚と責任感を育てる。また生徒一人一人が、自ら学び・考え、問題解決的な学習や5日間の職場体験に取り組み、コミュニケーション能力を向上させ、地域社会とのかかわりの中で豊かな心をはぐくむ。主体的な職業選択の能力や高い職業意識の育成を行い、自己実現に向けて主体的に進路決定の基礎を身に付けさせる。
- ④ 将来にわたって健康に生活できるように、基本的な生活習慣の確立を目指し、教育活動全体を通して、食育を推進するとともに、一校一取組を行い、体育・健康に関する指導を充実させ、心身の健康の保持と体力の向上を図る。また、安全を意識し安全の確保と事故防止を目標に指導の充実を図る。
- ⑤ 生徒一人一人が自らのよさを伸ばす教育の充実を図るため、スクールカウンセラーや教員間の情報の共有化を図り、生徒理解に努める。家庭をはじめ関係機関との連携を深め、個々のニーズに応じた支援を行えるように、指導体制や相談体制を充実していく。また、指導・評価方法の工夫や改善を目指し、研修の充実を図り、教師の識見・能力・指導技術を高めていく。
- ⑥ 北区学校ファミリーを生かした教育を推進し、幼・小・中学校の連携を深め、地域に開かれた信頼される学校づくりに努める。地域の人々と触れ合う機会を設定し、地域社会の一員としての自覚を促し、地域・社会に貢献できる生徒を育成する。
- ⑦ 地域・保護者の教育活動への参加を呼びかけるとともに、自己評価及び学校関係者評価の実施と公表を行う。特色ある教育活動を展開し、地域に根ざした学校を目指す。生徒が落ち着いて学習や教育活動に取り組める楽しい学校づくりを推進する。

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間

ア 各教科

- ① 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」等の結果を踏まえ、「授業改善推進プラン」に基づく「確かな学力」の向上のため、基礎・基本の定着を図る。また、作成した評価規準を改善して計画的な学習指導と評価の適正化に努め、学習意欲を高め、主体的に学習に取り組む態度を育てる。
- ② 体力向上に向け「フィジカルトレーニング」を行う。体育の授業が始まる前に、毎時間ランニングや筋力トレーニングを行い、運動能力を高めるとともに、成長・発達に必要な体力を高める。また、身体測定と体力テストを継続して行い、体力向上の確認資料を作成する。
- ③ ICT機器や新聞を活用した授業など、メディアを積極的に活用して、指導の改善・充実を図り、思考力、判断力、表現力、問題解決能力、読解力を育成し、学習意欲の向上に努める。
- ④ 数学科で少人数制クラス編成を行う。一人一人のつまずきを発見し、基礎・基本の確実な定着とつまずきやすい内容を確実に習得するための指導の工夫を図る。
- ⑤ 社会科でTTを実施し、生徒の能力に応じた個別指導の充実や問題解決的な学習を推進し、学習の仕方を学び、基礎基本の定着を図る。それとともに、新学習指導要領完全実施に向け、3年間の年間指導計画や評価計画を立て、計画的に指導する。
- ⑥ 国際社会に対応できる生徒を育成するため、2・3年の外国語（英語）の選択教科でALTとのTTを実施する。また、国語科においても、学力パワーアップ講師を活用し、学習意欲を向上させ、より個々のニーズに応じた適切な支援を行い、コミュニケーション能力を身に付けさせる。

イ 道徳

- ① 道徳教育推進教師を中心として、指導の工夫と充実を図る。特に生命の大切さについて重点を置き、人権尊重や倫理観を育てる。また、基本的な生活習慣（あいさつ・言葉遣い）の確立についても教育活動全体を通して充実させ、人間関係力を育成し、社会的・道徳的実践力を養う。
- ② 道徳教育の要となる道徳の時間を意図的・計画的に実施するとともに、学校行事を通して内面的指導を充実させ道徳的実践力を育てる。また、道徳授業地区公開講座を実施していく中で、豊かな心をはぐくむ。

ウ 特別活動

- ① 学級活動、生徒会活動や生徒の主体的な学校行事を通して、教員と生徒の信頼関係を築き、生徒相互の交流を深める。また、主体的な活動を通して、個人及び集団・地域の一員としての自覚を促す。
- ② 各教科、道徳及び総合的な学習の時間など関連させ、身に付けた力を十分発揮し、望ましい人間関係を形成し、集団の中で自己を生かす能力を養う。
- ③ ガイダンス機能を充実させ、生徒がよりよく生きるための判断力や価値観を培い、責任ある行動がとれる生徒を育てる。また、活動の目標を設定することにより、自ら意欲的に活動する態度を育て学校教育全般に生かす。

エ 総合的な学習の時間

- ① 全学年で各教科等で身に付けた知識や技能を生かし、主体的・協同的に学習に取り組む態度を育成する。また、自ら課題を設定し、多様な方法で問題の解決や探究活動に取り組み、まとめ、表現できるようにする。
 - ・ 1学年 職場訪問などの学習課題を主に個別・班で学習する。
 - ・ 2学年 都内の文化施設等や5日間の職場体験などの学習課題を主に個別・班で学習する。
 - ・ 3学年 修学旅行と合わせ、日本の歴史や外国人インタビューなどの学習課題を主に個別・班で学習する。

(2) 特色ある教育活動

北区学校ファミリーを生かし、幼・小・中学校の連携を深め、あいさつ標語やポスター制作を行い、少年の主張発表大会を実施する。地域の青少年地区委員会と協力し、児童・生徒の意見を発表・表彰する機会とする。また、全学年とも毎朝、モジュールの時間を設定し、10分間読書を行い、考える力・判断力・読解力等を育てる。その中で、自分の考えを人に伝える力を身に付けさせるとともに地域社会の一員としての自覚を促し、心身の健全育成を図る。

(3) 生活指導・進路指導

ア 生活指導

- ① 人権尊重の精神を培い、自他共に生命の尊厳を知り、教師や生徒相互の信頼関係を確立させることで、好ましい人間関係を育てる。また、全職員で指導に当たり、心身共に健康な生徒を育成するように、保護者との連携も密にしていく。
- ② 毎週目標を設定することで基本的な生活習慣の確立に努め自律した生活態度を育成する。また、教育相談や部会を開き生徒理解に努め、いじめや不登校の早期発見・早期対応に努める。生徒朝礼や全校朝礼を通し様々な角度から指導を深め、未然防止に努める。
- ③ 家庭・地域社会・関係諸機関との連携や協力体制を整え、生徒の生活実態を把握する中で、スクールカウンセラーとの連携を深め、教育相談活動の充実を図る。また、少年犯罪や非行から生徒を守るため、セーフティ教室等を実施する。インターネットや携帯電話等などの新たな課題にも対応できるよう推進する。
- ④ 北区学校ファミリーを生かして、朝のあいさつから地域ぐるみのあいさつ運動（ポスター・標語づくり）に発展させ、地域・社会との触れ合い、豊かな人間関係づくりに努める。

イ 進路指導

- ① 身近な職業調べや職場体験などを通して、自らの生き方を考え生涯にわたり自己実現ができるようにする。また、望ましい勤労観・職業観を養い、生徒の一人一人の適性・個性を生かした進路選択能力を身に付けさせる。
- ② 発達段階に応じて、関係諸機関や中学生の5日間の職場体験など様々な体験学習を取り入れたキャリア教育を推進する。さらに、主体的に学び、考える姿勢をもたせ、将来の自分づくりを始動させる。

3 学年別授業日数及び授業時数の配当

(1) 年間授業日数配当表

月 学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1	16	20	23	14	0	21	21	20	17	17	22	18	209
2	17	20	23	14	0	21	21	20	17	17	22	18	210
3	17	20	23	14	0	21	21	20	17	17	22	14	206
備考	○ 第1学年は、4月7日が入学式のため209日となる。 ○ 第3学年は、3月17日が卒業式のため206日となる。												

(2) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の年間授業時数配当表

区分		学 年			
		1	2	3	
各 教 科	必 修 教 科	国 語	1 4 0	1 0 5	1 0 5
		社 会	1 0 5	1 0 5	8 5
		数 学	1 4 0	1 0 5	1 4 0
		理 科	1 0 5	1 4 0	1 4 0
		音 楽	4 5	3 5	3 5
		美 術	4 5	3 5	3 5
		保 健 体 育	9 0	9 0	9 0
		技 術 ・ 家 庭	7 0	7 0	3 5
		外 国 語 (英 語)	1 0 5	1 0 5	1 0 5
	小 計	8 4 5	7 9 0	7 7 0	
科 選 択 教 科	国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 外国語 () 英語コミュニケーション				
	国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 外国語(英語)		3 5		
	国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 外国語(英語)			7 0	
	小 計	0	3 5	7 0	
道 徳		3 5	3 5	3 5	
特別活動 (学級活動)		3 5	3 5	3 5	
総合的な学習の時間		6 5	8 5	7 0	
総 計		9 8 0	9 8 0	9 8 0	
備 考					
ア 1 単位時間 ○ 1 単位時間は、5 0 分とする。					

備

考

イ 選択教科

学年	第1学年	第2学年	第3学年
開設時間		35時間	70時間
開設期間		通年	通年
開設教科数		1	2
開設教科名 及び教科コース 数()		<u>英語(2)</u>	<u>社会(2)</u> <u>英語(2)</u>
全コース		2	4
生徒選択可能教科数		1	2

ウ 特別活動

- ・生徒が主体的に活動する場面や機会を多く設定し、集団意識を高めるとともに、自発性や自主性を伸ばす。
- ・学級活動は年間35時間を確保する。

エ 総合的な学習の時間

学年	第1学年	第2学年	第3学年
配当時間	65時間	70時間	70時間
活動内容及び 育てたい資質・能力	地域の産業やボランティア活動などの学習課題を体験学習を通して、生徒に自ら課題を見付け、課題解決への情報を収集・活用して追究する力やまとめ、発表する力を育てる。 異学年集団による学習を通し、コミュニケーションを図り、考え方を身につけ、協同して課題を解決しようとする能力を培う。	職場体験活動を通して、社会の一員としての自覚を促すとともに、望ましい社会性や勤労観・職業観を育成する。生徒に課題意識や課題解決能力を培う。また、プレゼンテーションすることで発表力などを高めさせる。 異学年集団による学習を通し、コミュニケーションを図り、考え方を身につけ、協同して課題を解決しようとする能力を培う。	日本の歴史などの学習課題について、体験的な活動や班での探究を通して、主体的に問題解決に取り組む態度や課題解決能力を培う。また、プレゼンテーションすることで発表力などを高めさせる。 異学年集団による学習を通し、コミュニケーションを図り、考え方を身につけ、協同して課題を解決しようとする能力を培う。

オ 学校裁量の時間、その他

- ・配当時間 70時間
- ・活動内容 裁量A：朝読書・朝学習、学校行事の準備指導（35時間 全学年）
裁量B：避難訓練・各種委員会（20時間 全学年）
学年・学級活動（15時間 全学年）

裁量Aは、月曜日～金曜日にわたって、生徒の出欠席を確認した後、10分間の帯モジュールを設定する。